

3. 「シラサギコムギ」の後期追肥施用時期と子実蛋白質含量（情報）			
[要約] 「シラサギコムギ」の子実蛋白質含量を向上するには、幼穂長 30mm 期頃以降に施肥する必要がある。幼穂長 30mm 期の穂肥は稈が若干伸長するが蛋白質含量を向上させるとともに収量を顕著に高める。出穂直前の穂肥と出穂 10 日後の実肥は蛋白質含量を顕著に高めるが、増収効果は低い。			
研究室名	作物研究室	連絡先	086-955-0275

## [背景・ねらい]

本県産小麦は主にめん用に利用されるが、蛋白質含量の低いこと等が問題となっている。そこで、施用時期を異にした穂肥、あるいは出穂 10 日後実肥などの後期追肥が、シラサギコムギの子実蛋白質含量と収量に及ぼす影響を明らかにし、高品質、安定生産技術を確立する。

## [成果の概要・特徴]

1. 子実の蛋白質含量は、幼穂長 30mm 期以降の施肥により顕著に増加したが、これより早い施用では微増に止まるか、かえって無穂肥区より低下した（図 1）。
2. 収量は幼穂長 5～30mm 期頃の施用で多く、これ以前の施用でも一定の増収効果があった。しかし、出穂期に近い施用は増収効果が低く、出穂 10 日後の実肥ではほとんど増収しなかった（図 1）。
3. 幼穂長 30mm 期以前の穂肥では無施用に比べて稈長が 5～11%伸長し（図 1）、倒伏程度が 0.8～1 程度となることがあった。
4. 幼穂長、幼稈長、草丈の推移は図 2 のとおりであり、幼穂長 30mm 期は、幼稈長 21～24cm、草丈 60～65cm 程度であった（平成 15、16、18 年）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 県中南部のドリル播栽培を対象とする。
2. 実肥を施用する場合は収量確保のため別途穂肥を施用する必要がある（関連情報）。

[具体的データ]

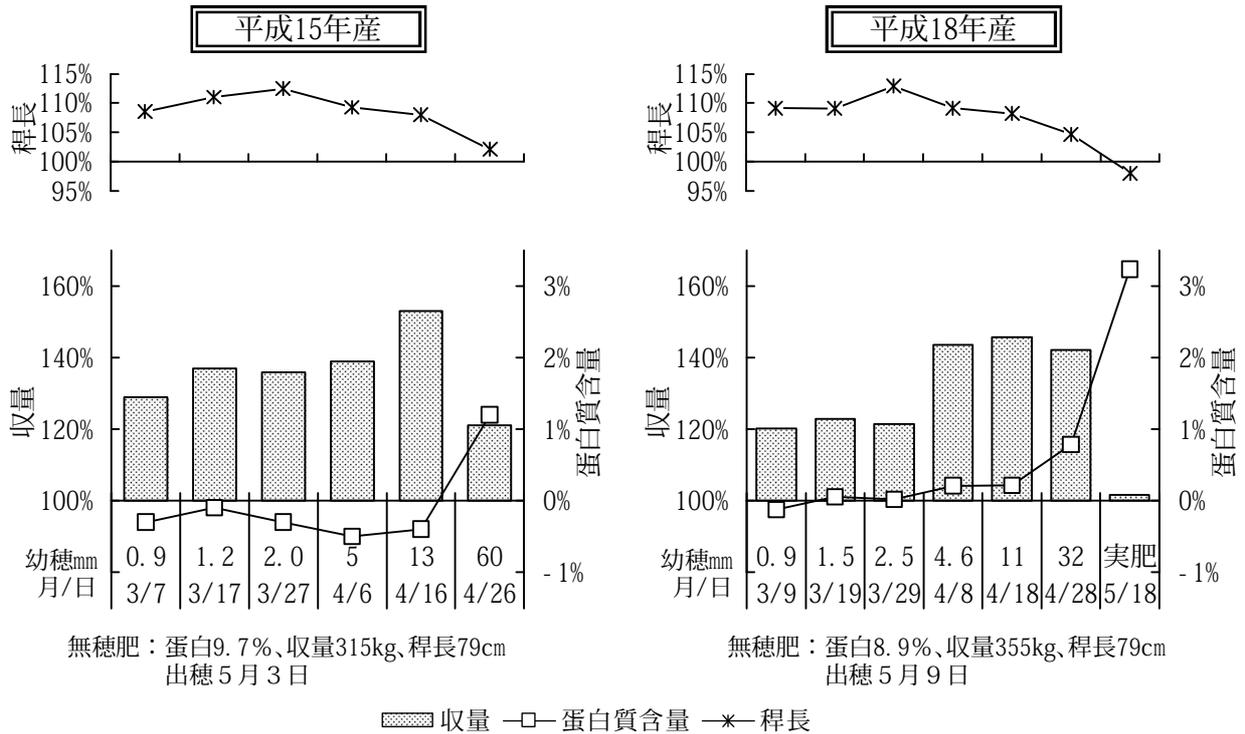


図1 後期追肥施肥時の幼穂長と子実収量、蛋白質含量及び稈長

注 窒素施肥：基肥5kg、2月4日追肥3kg(H18は2kg)施用後、

各期に2kg(平成18年は3kg)/10a施用

蛋白質含量は無追肥区を0とする差で、収量、稈長は無追肥区を100%とする比で示す

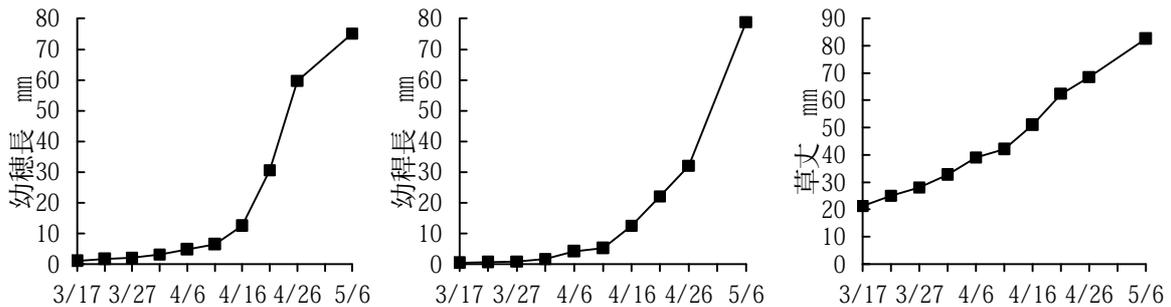


図2 幼穂長、幼稈長及び草丈の推移 (平成15年産)

[その他]

試験研究課題・事業名：中国地域における麦類の高品質・安定多収栽培技術の確立

予算区分：受託 (平成15~17年)、県単 (平成18年)

研究期間：平成15~18年度

関連情報等：平成18年度試験研究主要成果「シラサギコムギ」の施肥方法と品質、収量 (技術)」